

令和7年度事業報告(2025年)

(2025年4月1日～2026年3月31日)

【事業実施の方針】

1、外国人市民への日本語教育ボランティア、2日本人へのボランティア育成教室、3日本文化の理解を促進する文化交流事業、この3本柱を中心に学習者と「共に学ぶ」姿勢を大切にしつつ、外国人と日本人の共生社会構築の一助になれるよう目指して活動している。

・外国人市民への日本語教育ボランティア事業【定款第5条】

1 事業名 ジャボラ日本語教室

2 開催期間 令和7年4月1日～令和8年3月31日 毎週土曜日

日本語能力検定試験1級漢字、3級漢字

会話クラスレベル1、2、3、4、ビジネス、計5クラス 17時30分から21時 全33回

3 実施場所

浜松市中区早馬町2-1クリエイト7階国際交流協会 教室A、B、C

4 参加者人数

参加者 実数 70人(累計参加者数 延べ人数1700人)

13か国の学習者参加

5 事業内容

・主に就業している外国人に学習可能な土曜日午後5時～9時の間で日本語教室を開催した。

① 5時半～6時50分まで、日本語能力検定試験対1、3級漢字クラス、会話クラス初級(レベル1)

② 7時10分～8時40分まで、会話クラス初級2、3、4、ビジネスクラスを開催した。

③ 7月、12月、3月の学習区切りの日に 日本文化の理解を促進する文化交流事業を開催した。

全員が発言し、ビジネスクラスからはユニークな日本人観察も発表された。(ブログに記載)

指導者の日本伝統1折り紙バージョンは日本の干支(馬)の折り紙を披露し、

伝統2は、達磨の歴史を発表、実際に折り紙で学習者も作成した。

・ビジネスクラスの学習者達が初級クラスのメンバーに対して、折り紙の制作過程を手伝う等、

クラス内で言語の出来る者ができない者を助けられるようになった。(blogに記載)

・一堂に会して全員の共通語「日本語」での対話や同国人の交流も、とても楽しんでもらった。

6 事業実施の効果

・日本語学習の推進及び、外国人の抱える問題を専門の解決先に繋ぐ場所としても機能できた。

・本年度は学習者の身分と学習年数を統計的にまとめ在留期間と仕事の相関関係を調べた。

これは日本語学習を行う上で実際に必要な言語と内容を新たに鑑みるためである。別紙1参照

7 事業実施の成果

・日本語の会話学習を柱としつつも、時間厳守、防災、公共会場を使用する上でのごみの持ち帰り、

片付け等日本人との共生の基本的な事柄の意識づけとしての学習の場の継続ができた。

・ビジネスクラスは日本社会で働く上で、学べば役立つ内容で構成され、仕事上の外国人リスクの軽減となる。

その他

・能力試験学習を中心とした学習者は日曜日朝のクラスを紹介し、土曜夜はここでしか学べない人達

を受け入れ、浜松市全体の日本語学習が協調と協力で更に良い方向に進んでいけるよう留意した。

週末の貴重な時間帯にも関わらず学習者70名に支援された3名の大人支援スタッフに心から感謝いたします。

【2025年度外国人子ども支援】

1 事業名 ジャボラ子ども日本語支援

2 開催期間 令和7年4月1日～令和8年3月31日 月曜日～金曜日平日5日間

3 対象及び実施場所 浜松市公立小中学校在住小学生～中学生（旧西区～北区）

4 参加者人数 実数50名

小学校12校 小学生48人 中学校2校 中学生2名

5 事業内容

浜松市委託事業 子ども日本語学習支援

浜松市内の市立小中学校に在籍する日本語指導の必要な児童生徒に対し、生活言語や学習言語を習得させるために、在籍校にて取り出しや入り込みによる日本語・学習支援を行った

特徴

- ①全く日本語が話せない子供は(C判定と呼ぶ)5人に1人位の割合、他5名中2名位が少し話す宙ぶらりん状態
- ②日常会話は達者だが「書き」が苦手及び学習においては言葉が不足(B判定と呼ぶ)の子と2タイプに分かれる

取り組んだこと

特徴①の解決方法、日本語の習得が早く進むよう直接話法にこだわらず、先生がよく使用する教室の指示語は母語に置き換え、ユーチューブ化し、タブレットでの視聴を可能にした。

テキスト1を、80hの限られた時間内で有効に支援できるよう短く編集し直した。

特徴②の解決方法、教室の国語の流れに沿った日本語支援を意識し、資料作成を行った。

成果及び効果

今まで学習した日本語がその場限りになってしまい覚えさせるのは大変だった。子どもは自分にとって興味のない日本語はすぐに忘れる。在籍学級で使える日本語学習は反復されやすく記憶にも残りやすい。またわからない語彙を教科書から拾いだすことによって多少でも教室の流れからの疎外感を軽微にできる効果があると考えた。

その他

①3本柱の2、日本人へのボランティア育成、子ども支援者4月、6月、7月、9月、12月、3月計6回

大人支援者は計4回、必要に応じた内容で学習及び事業の完遂のため研さんした。

②基礎教育保障学会

「国勢調査活用プロジェクト」全都道府県及び指令都市における義務教育未修了者のデータベース化とレポート作成において、「浜松市の事例」を執筆。別紙2参照

③キャリアパスフォーラム 第5弾

日本語教育学会チャレンジ支援委員会様々な日本語教育現場Zoom開催へ登壇及び資料作成 別紙参照3

④子どもロングバワボ こどもテキスト1、再編集

⑤他インタビュー2件 ⑥ホームページ更新 ⑦第24回総会

平日約34週間、子ども実数50名に支援された7名の先生方に心から感謝いたします。

2025年度 貸借対照表

2026年3月31日現在

特定非営利活動法人日本語教育ボランティア協会

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	58,327		
普通預金	2,446,097		
未収金	30,000		
流動資産合計		2,534,424	
2 固定資産			
	0		
固定資産合計		0	
資産合計			2,534,424
II 負債の部			
1 流動負債			
未払い金	32,787		
預り金			
流動負債合計		32,787	
2 固定負債			
	0		
固定負債合計		0	
負債合計	0		32,787
III 正味財産の部			
1 前期繰越正味財産	1,578,277		
2 当期正味財産増減額		923,360	
正味財産合計			2,501,637
負債及び正味財産合計			2,534,424